

デジタル教材開発プロフェッショナル養成講座 課題提出について

- 1 個人用フォルダを作成し、その中に個票と作成したデジタルコンテンツ等を入れる。
フォルダ名は「(受講者番号 2桁) □ (所属) □ (氏名)」とする。※ 数と□は半角
例 01 教育学部 吉本浩司、12 大学院 吉本浩司、98 ○○中学校 吉本浩司
- 2 提出するデジタルコンテンツは、単体(動画やプレゼンデータ等)の場合は**作成データ**を、Webアプリ用データ(例 Kahoot!)の場合は授業計画・単元計画・パンフレット等の参考資料に**リンク先を貼り付けたファイル・必要に応じ作成データ**を、次のURLに各自でアップロードする。全容量が100MBを超える場合は事前に相談を。

【提出先】

https://drive.google.com/drive/folders/1GnTIWsFZzPAeBgAtf6ypuijTgNeYQF?usp=drive_link



- 3 提出期日 令和7年12月15日(月) 厳守

※ 提出したコンテンツを手直しする場合の最終締め切りは令和8年1月13日(火)

- 4 単位認定の要件(四つの要件、すべてを満たすこと)

- ① 欠席4日以内
事前に代替措置の承認を得て、必要な手続きを取った場合は出席扱い
- ② 出席した各授業に関する**授業用アンケートの回答**
- ③ **作成したデジタルコンテンツの提出**(令和7年12月15日(月) 〆切)
- ④ **作成したデジタルコンテンツに関するプレゼン**(令和7年12月20日・21日)

- 5 留意事項

- 令和7年12月20日・21日の全体発表は**一人3分以内**。各自、PCやタブレットPCで映像出力し、コンテンツ内容・使用方法等の概要のみ説明。割当ては下表。
- 令和7年12月20日・21日に**やむを得ない理由で欠席する場合(要 事前相談)**は、各自**プレゼン用動画を制作**し、個人用フォルダに個票とデジタルコンテンツとともに当該動画ファイルを入れて提出。個人用フォルダ名は「(受講者番号 2桁) □ (所属) □ (氏名) □ **【欠席】**」とする。 例 01 教育学部 吉本浩司 **【欠席】**

【発表順の割当て】都合が悪い場合は個人間で交代可。交代した場合は吉本まで連絡を。
令和7年12月20日(土)

13:00 ～ 15:00 全体説明	受講者番号 01 ～ 30、32 ～ 34
15:00 ～ 15:50 ポスターセッション	15:00～15:25 上記の内、奇数番号の人が自席で詳細を説明 15:25～15:50 上記の内、偶数番号の人が自席で詳細を説明

令和7年12月21日(日)

13:00 ～ 15:00 全体説明	受講者番号 31、35 ～ 68
15:00 ～ 15:50 ポスターセッション	15:00～15:25 上記の内、奇数番号の人が自席で詳細を説明 15:25～15:50 上記の内、偶数番号の人が自席で詳細を説明

デジタル教材開発プロフェッショナル養成講座 課題提出 個票

1	受講者番号	(受講者用名札に記載)
2	所属	
3	名前	
4	履修証明書	申請している ・ 申請していない
5	課題名	
6	対象・教科・領域	
7	講座との関連	
8	内容	
9	アピールポイント	

- 個票(A4 判 1 ページに収め PDF で ファイル名の例 01 教育学部 吉本浩司. pdf)と課題を併せて、同じフォルダに入れて提出
- 課題(デジタルコンテンツ)は、動画・プレゼン資料・地図等のデータか、授業計画・単元計画・パンフレット等のデータに作品のリンクを貼り付けたファイルを提出する。

デジタル教材開発プロフェッショナル養成講座課題提出 個票（記入例）

1	受講者番号	78
2	所属	教育実践開発コース
3	名前	愛大 恵美香
4	履修証明書	申請している ・ 申請していない
5	課題名	松山小学校歴史探検マップ
6	対象・教科・領域	小学6年 総合的な学習の時間・社会科
7	講座との関連	動画作成・WebGIS
8	内容	1 松山小学校歴史探検マップ 1枚 総合的な学習の時間の「ふるさと学習」で集めた、地域の歴史的事象・名所等の動画・写真や資料等20点を地図上のQRコードから読み取ることができる教材を作成した。 2 活用方法 ① 総合的な学習の時間の成果物発表会で活用するほか、社会科の歴史「明治維新」や地域における遠足にも活用できるように、教科横断的な学習教材を意識して作成した。 ② 学校運営協議会やPTAで紹介し、更なる地域教材の収集活動への協力を依頼する。 ③ 個別学習（B2、B4）・協働学習（C2、C3）で活用する。 ※ 内容については、 ① デジタル教材の説明 ② ねらい・活用方法 ③ 学習場面ごとのICT活用の類型（別添参照） など分かるように記入する。
9	アピールポイント	動画の音声はAIを活用している。また、著作権に配慮して、BGMもフリーのものを使っている。 本資料をPTA新聞で紹介していただき、保護者・地域の方々にも地域への愛着が深まるよう工夫する。 今後、地域のハザードマップや危険箇所、地域のお店0調べなどの様々な情報を追加するなど、教材としての広がり期待できる。

〈学習場面ごとのICT活用を類型化し、そのポイント及び実践事例を掲載〉

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。	デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。		タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。	
A1 教員による教材の提示	B1 個に応じる学習	B2 調査活動	C1 発表や話し合い	C2 協働での意見整理
 画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	 一人一人の習熟の程度等に応じた学習	 インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	 グループや学級全体での発表・話し合い	 複数の意見・考えを議論して整理
B3 思考を深める学習	B4 表現・制作	B5 家庭学習	C3 協働制作	C4 学校の壁を越えた学習
 シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習	 マルチメディアを用いた資料、作品の制作	 情報端末の持ち帰りによる家庭学習	 グループでの分担、協働による作品の制作	 遠隔地や海外の学校等との交流授業